

(2) 民間の水供給の状況（水価、水質、水量）

1) 給水事情

国内避難民の再定住化地域はその殆どが、前述した EPAL 給水網のエリア外にあり、給水車による給水、河川水、深井戸の地下水から生活用水を得ている。これら生活用水の実態を把握するため、

- ① 水を卸売りする人、組織
- ② 給水車で水を買う商人、
- ③ 貯水タンクを所有し給水車から買った水を周辺住民に販売する人々、
- ④ 水を購入する住民（主に国内避難民再定住化地域）、

の4項目についてアンケート調査を行った。

① 水卸商（ジラファ等）

給水トラックへ水を販売する業者は、給水車のタンクへ給水する高架ホース“ジラファ”を運営する業者と、河川水（未処理）を直接ポンプアップして給水車に販売する業者の2つのタイプがある。また、“ジラファ”の所有は EPAL であり、一部卸も行っている。Kikuxi 浄水場では水源を農業用水路に依存しているため、例外的に農業省がジラファを所有し、農業省下の公的企業が運営している。ここでは、EPAL の処理水を供給するジラファと浄化前の農業用水を直接供給するジラファの2箇所がある。

② 給水車

各地のジラファに集まる給水車を対象に、アンケート調査を行った。

・所有者、タンク容積

給水車の所有者は、個人が最も多く約70%弱を占める。その他は、私企業、工場、警察等に属する。個人所有のタンク容量は5~10m³が一般的である。

・購入価格、販売価格

EPAL の浄水をジラファから給水を受け運ぶ場合、1m³あたり平均15~20kz.で購入し、その4~5倍程の価格で販売している。滅菌処理されていない河川水・農業用水の場合は、1m³あたり平均5~10kz.で購入し、その10倍程の価格で販売している。運搬距離が長くなる程、燃料代が嵩むため、販売価格が高くなる傾向がある。

